

竹林から情報発信！～阿波たけのご農園～

祖父から受け継いだ阿南市福井町の竹林（50a）を再生し「阿波たけのご農園」を開園した庄野洋平、耕生兄弟を紹介します。

兄弟が幼い頃、祖父は竹林を整備し、3月から4月のシーズンになるとたけのこを大量に掘り、出荷していました。しかし、25年ほど前から安価な外国産等が入ってきた影響などで出荷量は減少し、直近10年で自家用程度となり、竹林の整備も行き届かなくなっていました。

その後、2019年に祖父が亡くなったことをきっかけに再び竹林を活用したいと考え、同年12月から整備を開始し、翌年4月に「阿波たけのご農園」を開園しました。

林業の技を活かし農園の整備・たけのこ生産を代表である弟の耕生氏が担当し、ホームページ作成など広報・販売をマネジャーとして兄の洋平氏が担当しています。

同農園ホームページでは、竹林とたけのこの関係、たけのこレシピの紹介、竹林での散策や収穫体験を画像や動画で情報発信しており、視聴者に楽しんでもらうことで、たけのこ販売促進につながるような運営を目指しています。

竹林は、計画的に竹を育てることが必要で、生えてから6年程度経過した竹は、たけのこの生産能力が低下するため伐採する必要があります。このため、竹の生えた年を竹の幹に記録することで伐採する時期の目安となり、さらに、どの年の竹がたけのこを多く生産するのかも把握できるとのことです。そして、古い竹を伐採し、肥料を与え、下地を整備したことで、例年よりもたけのこを早く掘り始めることができ、生産量も増加しました。農園で生産したたけのこは、「お姫様のように美しい」という意味を込めて「筍姫（たけのこひめ）」と命名し、2021年1月に商標登録しました。2021年シーズンは3月12日から、ホームページ上のオンラインショップにてたけのこの販売を開始している他、各地の産直市への出荷も始まっています。

洋平氏は、「ホームページの更新作業は、農業版テレワークとなる。いろんな農業のやり方にも挑戦したい。竹林体験は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中断しているので残念だが、見る人に楽しんでもらえるように画像や動画を随時更新したい。」と話されました。



庄野兄弟姉妹の幼い頃のたけのこシーズンの様子



整備する前の竹林の様子



整備が一段落



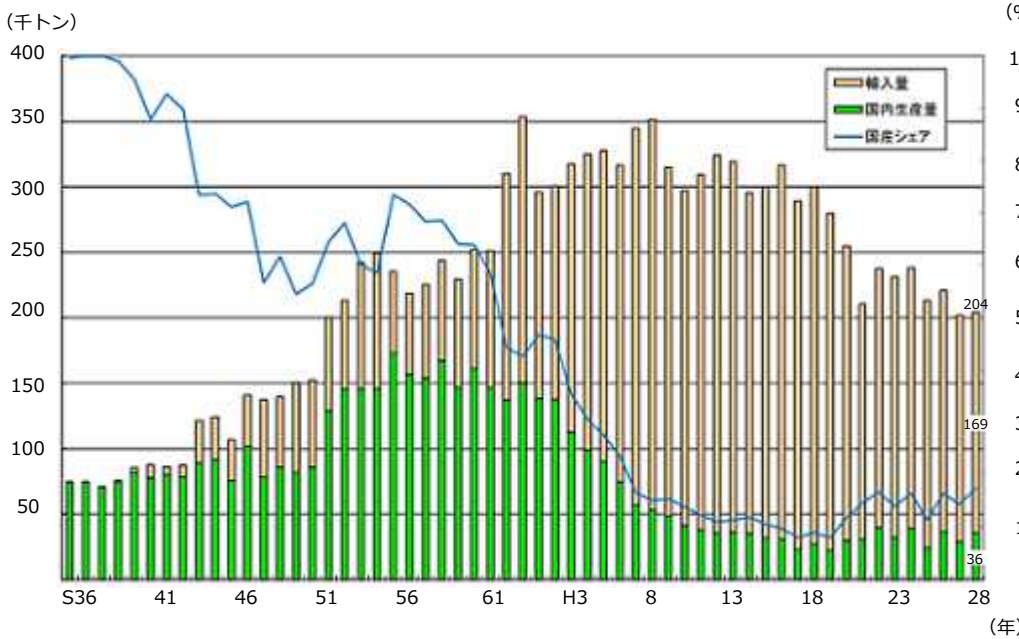
竹の生えた年を記録



筍姫（たけのこひめ）

写真提供：阿波たけのご農園 (<http://takenokohime.jp/>)

たけのこの生産量と輸入量の推移



林野庁「竹の利活用推進に向けて」から抜粋 ↓ 資料：農林水産省統計表

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/tokuyou/take-riyou/>

たけのこの輸入量は、昭和40年頃から徐々に増加傾向が見られましたが、平成8年をピークに減少傾向が見られます。

国内生産量は、昭和55年をピークに減少傾向が見られ、平成19年の底からわずかな増加傾向が見られます。

国産シェアは、今から25年前の平成7年にはすでに15%程度になっています。その後も減少が続き平成17～19年において10%を下回った後、増加に転じています。

あふの環2030プロジェクト

～食と農林水産業のサステナビリティを考える～



*あふ Agriculture, Forestry and Fisheries の頭文字をとったもの。農林水産業。

古語では、会ふ（出会う）、和ふ（混ぜ合わせる）、餐ふ（食事のもてなしをする）と、いった意味があります。

「持続的な生産消費」に向けた取組を進める企業や団体の合同プロジェクト

あふの環2030

あふの環プロジェクトは、2015年の国連サミットで採択された2030年のSDGs達成を目指し、今だけでなく次の世代も豊かに暮らせる未来を創るべく立ち上げられたプロジェクトです。

食品や農林水産物の持続的な生産消費は、一企業の取組だけで解決することは困難です。

このため、お互いの持つ技や強みを組み合わせながら、社会全体の取組として進めていく必要があります。

「あふの環プロジェクト」では「スPENDシフト～サステナブルを日常に、エシカルを当たり前前に！～」を合言葉に、生産から消費までのステークホルダーの連携を促進し、食料や農林水産業に係る持続的な生産消費を達成することを目指します。

詳しくはこちらをご覧ください（農林水産省ホームページ） ↓

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/sustainable2030.html

◎「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集：中国四国農政局 徳島県拠点

〒770-0943 徳島市中昭和町2丁目32

TEL (088)622-6131(内線223) FAX(088)626-2091 <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>